

テキスト・参考書

(購入方法などの詳細は本検定ホームページをご覧ください)

テキスト・参考書を活用して、①過去問題集を解いて出題傾向をつかむ。②過去問題集の解説やテキスト、高等学校農業用教科書で問題を確認する。③自分の苦手な領域を重点に②の確認を行う。④類似した出題もあるので過去問題集を何度も学習する—などの勉強方法も効果的です。

3級

- (1) 2025年版過去問題集3級 (発行)全国農業会議所
*2022年度、2023年度、2024年度試験問題6回分を収録
- (2) 日本農業技術検定3級テキスト (発行)全国農業高等学校長協会
- (3) 文部科学省検定教科書 高等学校農業用 (発行)教科書出版会社

2級

- (1) 2025年版過去問題集2級 (発行)全国農業会議所
*2024年度試験問題2回分を収録
- (2) 日本農業技術検定2級テキスト(改訂新版)注 (発行)全国農業会議所
- (3) 文部科学省検定教科書 高等学校農業用 (発行)教科書出版会社

1級

- (1) 1級学科試験問題…日本農業技術検定協会(全国農業会議所)
*2022、2023、2024年度試験問題、年度ごとに実費販売
- (2) 日本農業技術検定1級参考図書…農業関係出版社

※1級試験問題は過去問題の出版物はありません。ホームページをご覧くださいの上、本検定協会事務局宛にメールにてご連絡ください。実費でコピーして送付いたします。

※テキスト・参考書については、それぞれの発行元にお問い合わせください。 全国農業高等学校長協会 TEL.03-5357-1666
注)2級テキスト(改訂新版)は2分冊(I 農業一般・作物・野菜、II 農業一般・花き・果樹・畜産・食品)で、発行は全国農業会議所です。

JAにおける団体受験の取り組み紹介

JAあいち豊田・みよし施設園芸支援センターは、地域での新規就農と担い手を育成する研修施設ですが、営農関連部署に配属されて5年未満のJA職員の農業知識向上のため、月1回程度の研修会を開いており、研修の成果を確認するために本検定を受験活用しています。昨年度は研修した職員6人が3級を受験して全員が合格しました。

JAおおいたでは、人材育成を目的に年間で職員1名につき1資格取得をモットーに取り組んでおり、農業関係資格として本検定資格を推奨しています。非農家出身者が多くなってきたことから、昨年度には本検定の対象を営農指導担当者から信用・共済部門などの一般職員にも拡大し、農業の基礎知識修得のための3級受験者が前年度の3倍36人に増えました。また、合格率を向上させるために過去問題集とテキストを用いた試験前の事前研修会を開催した結果、受験者のほとんどが資格取得に至り、その実績により3級の最優秀団体にも選ばれました。

も選ばれました。

JA和歌山中央会では、令和4年度より、基礎的な農業に関する知識習得を目的とした県内JAグループの新規採用職員の一部が参加する4か月の合宿研修(本科生教育)において、3級の過去問題集とテキストを配布し、練習問題で進捗を確認しながら、試験合格を研修成果のひとつとして取り組んでいます。集中研修の効果もあり、昨年度は研修生のほぼ全員が3級資格を取得しています。

JAとなみ野では、職員のスキル向上のために各種資格試験の団体受験などを積極的に実施して、合格者には受験料・テキスト代の助成や人事評価にも反映させて人材を育成しています。その一環として、昨年度には本検定の2級に営農指導員など14人が受験し、業務で培った実力の発揮による高い合格率が評価されて、2級の最優秀団体として表彰されました。

私たちが応援しています! — 日本農業技術検定への協賛企業・団体



お問い合わせ

日本農業技術検定協会 (事務局：一般社団法人 全国農業会議所)
〒102-0084 東京都千代田区二番町9-8 中央労働基準協会ビル2階
TEL: 03-6910-1126 FAX: 03-3265-5140 e-mail: kentei@nca.or.jp

日本農業技術検定協会
構成団体

(一社)全国農業協同組合中央会、全国町村会、全国農業高等学校長協会、全国農業大学校協議会、全国農学系学部長会議、全国大学附属農場協議会、(公社)日本農業法人協会、(一社)全国農業改良普及支援協会、(公財)農民教育協会、(公社)国際農業者交流協会、(一社)日本農業機械化協会、(一社)全国農協観光協会、(一社)農山漁村文化協会、(一社)全国農業会議所【事務局】



2025年度農林水産省・文部科学省後援

日本農業技術検定

試験日

第1回

7/5_土

第2回

12/6_土

応募期間

第1回 4月25日_金～ 5月30日_金
第2回 9月29日_月～10月30日_木

受験級

第1回 3級 2級
第2回 3級 2級 1級

JAの経済事業改革は 職員のスキルアップから!

JAの営農指導力のスキルアップには2級・1級を!
JA一般職員には農業の基礎知識修得のための3級を!



日本農業技術検定は、わが国の農業現場への新規就農のほか、農業法人や関連企業等への就業をめざす学生や社会人などを対象に、教育研修の効果を高めることを目的とした農業専門の全国統一の試験制度です。

農業の環境が大きく変化するなかで、本検定は農業に関する実践的知識の修得水準を客観的に測定しますので、JAの営農指導者には2級・1級の受験で営農指導のスキルアップ、一般職員には3級受験により農業一般の基礎知識の修得に役立ちます。

実施主体

日本農業技術検定協会 (事務局：一般社団法人 全国農業会議所)
<https://www.nca.or.jp/support/general/kentei/>





日本農業技術検定 概要

第1回

2025年7月5日(土)

3級 10:00～10:40 (40分)

2級 11:10～12:10 (60分)

応募期間

第1回 4月25日(金)～ 5月30日(金)

第2回 9月29日(月)～10月30日(木)

試験会場

一般受験は東京・大阪等各地の指定会場

団体受験は試験実施団体の準備・提供した会場

【2024年度優秀表彰団体】※農業高等学校の部を除く

〔JAの部〕2級最優秀団体: JAとなみ野、2級優秀団体: JA香川県、3級最優秀団体: JA大分県、3級優秀団体: JAみなみ信州、JA和歌山中央会、JA福岡市

〔大学の部〕2級最優秀団体: 茨城大学農学部、2級優秀団体: 玉川大学農学部、日本大学生物資源科学部、龍谷大学農学部、鳥取大学農学部、佐賀大学農学部

〔大学校等の部〕2級最優秀団体: 新潟県農業大学校、2級優秀団体: 群馬県立農林大学校、アグリイノベーション大学校関東校、アグリイノベーション大学校関西校、兵庫県立農業大学校、鳥取県立農業大学校、広島県立農業技術大学校、佐賀県農業大学校、鹿児島県立農業大学校

●JA新はこだて、JA東京中央、JAマインズ、JAかながわ西湘、JA梨北、JAぎふ、JAふじ伊豆、JAあいち豊田、JAこうか、JAとなみ野、JA長野中央会、JA上伊那、JAあづみ、JA信州うえだ、JA信州諏訪、JA佐久浅間、JAみなみ信州、JA松本ハイランド、JA大阪泉州、JA大阪南、JA丹波ひかみ、JA兵庫六甲、JA和歌山中央会、JA香川県、JA福岡中央会、JA粕屋、JA福岡市、JA糸島、JAふくおか八女、JA柳川、JAくるめ、JA長崎せいひ、JAくま、JAおおいた、JAあいら、JAおきなわ、では営農指導力の向上や一般職員のキャリアアップを目的に団体受験を実施しています。

県連グループとして、営農指導員上級資格の要件の一つとしたり、一般職員は全員3級資格を取得する取り組みを進めるところもあります。

●拓殖大学北海道短期大学、秋田県立大学、茨城大学、高崎健康福祉大学、玉川大学、東京農業大学(神奈川、北海道)、日本大学、静岡県立農林環境専門職大学、名城大学、新潟食料農業大学、信州大学、龍谷大学、京都先端科学大学、摂南大学、鳥取大学、県立広島大学、佐賀大学、東海大学(熊本)、大分短期大学、南九州大学、宮崎大学、琉球大学、では大学生の団体受験を進めています。多くの大学では学生がもともと農業経験もないため、大学での農学習得の補強手段として活用されているほか、日本大学生物資源科学部では農場実習の中で本検定受験に取り組んでいます。

●本検定の上位資格は、一定の農業に関する実務的知識を習得していることの証明になります。

試験方法

〔3級〕 学科試験のみ

〔2級〕 学科試験+実技試験

〔1級〕 学科試験+実技試験

※1級、2級も学科試験のみの受験が可能です。学科に合格した場合は、「学科試験合格証明書」を発行します。なお、1級・2級実技試験は免除措置があります。詳しくは本検定ホームページをご覧ください。

3級 試験科目	農作業の意味がわかる入門レベル	■ 農業基礎として共通30問 ■ 「栽培系」「畜産系」「食品系」「環境系」から1科目選択で20問。ただし、「環境系」は、環境共通10問と3分野(造園、農業土木、林業)の各10問から1分野選択 ■ 四者択一のマークシート方式による計50問
	主な受験対象: 農業高校生	
2級 試験科目	農作物の栽培管理等が可能な基本レベル	■ 農業一般として共通10問 ■ 「作物」「野菜」「花き」「果樹」「畜産」「食品」から1科目選択で40問 ■ 五者択一のマークシート方式による計50問
	主な受験対象: JA営農指導員・大学生	
1級 試験科目	農業の高度な知識・技術を修得している実践レベル	■ 農業一般として共通20問 ■ 「作物」「野菜」「花き」「果樹」「畜産」「食品」から1科目選択で40問 ■ 五者択一のマークシート方式による計60問
	主な受験対象: JA営農指導員・大学生	

日本農業技術検定の受験実績

①全体受験実績(2019～2024年度)

(受験者数
合格率)

	3級	2級	1級	合計
2019年度	19,992人(59%)	5,311人(23%)	266人(7%)	25,569人(51%)
2020年度	18,790人(66%)	3,015人(21%)	206人(7%)	22,011人(59%)
2021年度	20,939人(66%)	5,908人(23%)	265人(5%)	27,112人(56%)
2022年度	17,932人(63%)	5,024人(21%)	243人(13%)	23,199人(54%)
2023年度	17,573人(66%)	4,447人(23%)	261人(10%)	22,281人(57%)
2024年度	17,984人(65%)	4,580人(23%)	278人(12%)	22,842人(56%)

②科目別合格率(2024年度)

3級	2級	1級
栽培系	作物	作物
畜産系	野菜	野菜
食品系	花き	花き
環境系	果樹	果樹
	畜産	畜産
	食品	食品
計	計	計

③合格基準

〔3級〕 100点満点の原則60%以上

〔2級〕 100点満点の原則70%以上

〔1級〕 120点満点の原則70%以上

実技試験

(2級、1級試験では学科のみの受験も可能です。学科試験合格者には学科試験合格証明書が交付されます。実技試験までご希望の方は以下をご参照ください)

①2級実技試験免除

2級実技試験(ほ場での農業機械についての実地検定)の希望者は11月に受験の機会があります。農業系の学校(農業高校、農業大学校、大学等)での所定の農業機械等の農場実習、農業経験(JAの営農指導経験を含む)1年以上、2級実技試験免除規定に指定する農業用機械・食品加工の2機種(工程)以上の講習を修了していれば免除が可能となります。

学校での2級団体受験の場合は、学校(団体)としての2級実技免除手続きをお薦めします(5年間有効)。具体的な手続きは本検定ホームページをご覧ください。

※農業機械の実習証明に必要な講習会については、本検定ホームページをご参照ください。

②1級実技試験免除

1級実技試験(12月の1級学科試験と同日時に実施)は1級学科試験合格者の希望により受験が可能です。農業系の学校等での農場実習等4単位取得者又は2年以上の営農実務経験を有する方は免除が可能となります。詳細は本検定ホームページをご覧ください。

申込方法

お申し込みは
ホームページから ▶ <https://www.nca.or.jp/support/general/kentei/>

①一般受験

個人がインターネットで申し込む場合は、申込方法の「一般受験」画面から申し込む。

雇用就農資金支援対象の雇用就農者は、都道府県農業会議が受験者を取りまとめてインターネットで申し込む。

※受験料の振込先口座番号は受験者(団体)別になっており、毎回変わります。所定の振込口座へ、応募期間内に受験料をお振込みください。

②団体受験

学校・JA・農業法人など要件(受験者5名以上、試験会場を提供、試験官1名以上担当など)を満たす実施団体がインターネットで申し込む場合は、申込方法の「団体受験」画面から申し込む。